

# ミュージカル「ハートストラ」

## 第一幕

緞帳は使わない。舞台前面に丸い演技エリア。演技エリア中央後方にバンドエリア。バンドエリアの左右に階段があり、バンドエリアの天井に続く。2階中央部分が一番高くなっている。2階中央奥が映像エリアとなつて、各場面の背景が投影される。

ミュージシャンがバンドエリアに登場し、演奏の準備開始。演奏準備が出来たら、舞台監督のキューで本ベル（音楽）が鳴る。

本ベル終了後、キャスト登場。キャストは、皆、現代に生きている人々。サラリーマン、OL、主婦、教師、お店の主人、スポーツ選手、キャバ嬢、高校生など老若男女さまざま。全員舞台上に整列して座禅を組む。

M1演奏（木魚）開始。

### M1「般若心経」

キャストたちによる「般若心経」の読誦。「摩訶般若 波羅蜜多心経」の文字が投影される。

読誦する人々

摩訶般若波羅蜜多心経 まかーはんにやーはらみたしーんぎよー

観自在菩薩 かんじーざいぼーさー（※つは発音しない）

行深般若波羅蜜多時 ぎよーじんはんにやーはーらーみーたーじー

照見五蘊皆空 しょーけんごーうんかいくー

度一切苦厄 どーいつさいくーやく

舍利子 しゃーりーしー

色不異空空不異色 しきふーいーくーくーふーいーしき

色即是空空即是色 しきそくぜーくーくーそくぜーしき

受想行識亦復如是 じゅーそーぎよーしきやくぶーによーぜー

舍利子是諸法空相 しゃーりーしーぜーしよーほーくーそー

不生不滅不垢不淨 ふーしよーふーめつふーくーふーじよー

不增不減 ふーぞーふーげん

是故空中無色

ぜーこーくーちゅーむーしき

無受想行識

むーじゅーそーぎよーしき

無眼耳鼻舌身意

むーげんにーびーぜつしんにー

無色声香味触法

むーしきしよーこーみーそくほー

無眼界乃至無意識界

むーげんかいなしいしーむーいーしきかい

無無明

むーむーみよー

亦無無明尽

やくむーむーみよーじん

乃至無老死

ないしーむーろーしー

亦無老死尽

やくむーろーしーじん

無苦集滅道

むーくーしゆーめつどー

無智亦無得

むーちーやくむーとく

以無所得故

いーむーしよーとつこー

菩提薩埵

ぼーだいさつたー

依般若波羅蜜多故

えーはんにゃーはーらーみーたーこー

心無罣礙無罣礙故

しんむーけいげーむーけいげーこー

無有恐怖

むーうーくーふー

遠離一切顛倒夢想

おんりーいつさいてんどーむーそー

究竟涅槃

くーぎようねーはん

三世諸仏

さんぜーしよーぶつ

依般若波羅蜜多故

えーはんにゃーはーらーみーたーこー

得阿耨多羅三藐三菩提

とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい

故知般若波羅蜜多

こーちーはんにゃーはーらーみーたー

是大神咒是大明咒

ぜーだいじんしゆーぜーだいみよーしゆー

是無上咒

ぜーむーじよーしゆー

是無等等咒

ぜーむーとーどーしゆー

能除一切苦真実不虛

のーじよーいつさいくーしんじつふーこー

故說般若波羅蜜多咒

こーせつはんにゃーはーらーみーたーしゆー

即說咒曰

そくせつしゆーわつ

羯諦羯諦波羅羯諦

ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー

波羅僧羯諦菩提薩婆訶

はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー

般若心經

はんにゃーしーんぎよー

M1終了。続いてM2へ。

## M2 「現代社会のなかで」

都会の風景が変わる。読誦を終えた人々は立ち上がり、それぞれのエリアに行って、日常の仕事などの動きを行う。仕事をする人。スマホで会話する人。ゲームをする人。通勤する人。洗濯したり、アイロンをかける人。料理をする人。スポーツをする人。読書する人。話し合う人と人。歩く人。バレエのレッスンをする人など。

### 現代社会の人々

生きる 働く しゃべる 笑う  
思う 聞く 洗う 片付ける  
食べる 楽しむ 寝る 愛する  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ

学ぶ 教える 鍛える 練習する  
ほめる 叱る おこる あやまる  
見る 読む 書く 楽しむ  
歩く 走る のぼる おりる

満員電車に乗って窮屈に通勤通学する、慌ただしい都会の人々。

見る 読む 書く 楽しむ  
歩く 走る のぼる おりる

生きる 働く しゃべる 笑う 学ぶ 教える 鍛える 練習する  
思う 聞く 洗う 片付ける ほめる 叱る おこる あやまる  
食べる 楽しむ 寝る 愛する 見る 読む 書く 楽しむ  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ 歩く 走る のぼる おりる

学ぶ 教える 鍛える 練習する 生きる 働く しゃべる 笑う  
ほめる 叱る おこる あやまる 思う 聞く 洗う 片付ける  
見る 読む 書く 楽しむ 食べる 楽しむ 寝る 愛する  
歩く 走る のぼる おりる 働く 仕事する 頑張る 急ぐ

きびしい競争社会に生きる人々。舞台奥から若い女性が歩いてくる。  
現代の都会に暮らす主人公の「ゆう」。

生きる 働く しゃべる 笑う 学ぶ 教える 鍛える 練習する  
思う 聞く 洗う 片付ける ほめる 叱る おこる あやまる

食べる 楽しむ 寝る 愛する 見る 読む 書く 楽しむ  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ 歩く 走る のぼる おりる

舞台中央前。ゆうは、図書館で一冊の本を手にする。(その本は、  
舍利子が持っている)本の表紙に書かれた文字を読むゆう。

ゆう

般若心経・・・

全員、ストップモーション。言葉もなくなる。照明、ゆうの周囲以  
外、暗くなる。M2終了。

### M3 「君だけの命に」

本を開くゆう。舍利子がゆうに声をかける。

舍利子

興味がある？

ゆう

(本を読んで)「すべての悩みがなくなる最高の智慧」？

舍利子

その通り

ゆう

ほんとかしら？

舍利子

悩みがある？

ゆう

自分がイヤ

舍利子

読んでみたら？

ゆう

難しそう

舍利子

教えよう

ゆう

お経なんて

舍利子

分かるように

ストップモーションの現代社会の人々は動き出し、退場。舞台上は  
ゆうと舍利子の二人だけになる。ドライアイス。不思議な空間へ。

舍利子

千年以上前から

今に伝わる教えさ

苦しむ多くの人を  
救ってきた言葉さ

もし君が少しだけ  
不安なら知るといい

短い教えだから  
覚えられる 君にも

見ている世界を見つめ直して  
新しい命を生きるため

恐れず こわがらず  
前向きに歩（あゆ）むため

輝く君だけの素晴らしい命に  
素晴らしい命に

M3終了。すぐにM4へ。舍利子はゆうの本を受け取る。

#### M4 「度一切苦厄」

背景は靈鷲山に変化。舍利子とゆうは舞台上手前に移動。

舍利子

むかしむかし

お釈迦様が

靈鷲山（りょうじゆせん）という山に

弟子たちを連れて登った時のこと

舞台2階中央の一番上にお釈迦様が座り、その一段下に観自在菩薩が座る。その下の段々に釈迦の弟子たちが列を組んで座る。山は高いので、周囲に雲と太陽をあらわすパネルを持った天女たちも登場。演劇的な美しい景色をつくり上げる。

舍利子

お釈迦様が深い瞑想に  
はいられていた時

弟子の舍利子が聞いたのです

もしも立派な若者が  
智慧（ちえ）の完成を目指すなら  
どのように学べばいいと  
答えるべきでしょうか？

お釈迦様は瞑想中  
代わりに観自在菩薩が

答えました

観自在菩薩

舍利子よ

(弟子と天女)

ウ――

私は智慧の完成を目指し

ウ――

般若波羅蜜多の実践をしていると

ウ――

五蘊(ごうん)はみな「空(くう)」だと分かり

ア――

一切の苦悩から解き放たれたのだ

ア――

「観自在菩薩 行深般若 波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄」  
の文字が投影される。

弟子・天女

ア――

天女たちは、ゆうの周囲でひと踊り。

ゆう

きれい

観自在菩薩と弟子たちと天女のコーラスと舞。

菩薩・弟子・天女

般若波羅蜜多は

最高の智慧

般若波羅蜜多

ア――

ゆう

一番上はお釈迦様ね

あの人は観自在菩薩？

舍利子

観音様と呼ばれることも

ゆう

ああ観音様 知ってる！

舍利子

観音様は言われたのです

五蘊は空だと分かった時に

すべての悩みが消えたよ

舞台奥が暗くなり、釈迦、観自在菩薩、弟子、天女たち退場。

ゆう

すべての悩みが消えた？

舍利子

じゃ 私の悩みも？

ゆう

もちろん

ゆう

でも分からないことだらけ

五蘊て何？

空って何？

セリフ尻でM4終了。

## M5 「照見五蘊皆空」

舍利子

照見五蘊皆空

「照見五蘊皆空」の文字と宇宙的な背景。間奏。舞台前に5人の女性ダンサー（五蘊⇨新体操チーム、リボンの演技）が登場して踊り始める。舍利子は五蘊ダンサーを巡り、ゆうに説明する。

舍利子

五蘊とは

私たちを構成する五つの要素 ◆「色」の文字投影。

色（しき） それは物質 肉体のこと（踊る色）

色（しき） 肉体 ◆「受」の文字投影。

受（じゆ） それは感じ取ること（踊る受）

受（じゆ） 感じる ◆「想」の文字投影。

想（そう） それは想像すること（踊る想）

想（そう） 想像 ◆「行」の文字投影。

行（ぎよう） それは意思の働き（踊る行）

行（ぎよう） 意思 ◆「識」の文字投影。

識（しき） それは認識（踊る識）

識（しき） 認識

この五つで私たちは出来ています

宇宙の背景が躍動する。舞台奥に天女たちが登場し、歌う。踊る五蘊ダンサー。

舍利子

照見五蘊皆空

女性コーラス

照見五蘊皆空

舍利子

照見五蘊皆空

女性コーラス

照見五蘊皆空

間奏。華やかに踊る五蘊ダンサー（新体操⇨リボンの演技）。

女性コーラス

照見五蘊皆空

舍利子

色受想行識

女性コーラス

照見五蘊皆空





空 それは真理  
科学者が追いかける

空 それは愛  
あなたを生かしてる

大きな宇宙のみなもと

空 その世界は  
すべてがひとつ

空 あなただつて  
空のひとしく

空 あなただけの  
役目を果たすため

空からこの世に  
現れた愛なんだ

すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている

流れる雲の神秘的な背景。

舍利子とゆう

空 その世界は  
すべてがひとつ

(現代社会の人々)

ア  
ア

空 私だつて  
空のひとしく

ア  
ア

空 私だけの  
役目を果たすため

ア  
ア  
果たすため

空からこの世に  
現れた愛なんだ

ア  
現れた愛なんだ

すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている

すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている

すべては空に繋がっている

ア

すべては空に繋がっている

ア

音楽、高鳴り、M6終了。舞台は都会の夜景に変化。

## M7 「苦しむ人はどれだけ」

現代社会の人々、ステージ上に広がって、M2と同じように動き始める。だが、テンポはゆっくり。夜を生きる人々。都会の中で、自分を振り返るゆう。人々は皆、LEDの懐中電灯を持って動く。夕方の照明から、ゆっくり夜へと変化。それに合わせて、LEDを点灯させる人々が増えて行く。

### 現代社会の人々

生きる 働く しゃべる 笑う  
思う 聞く 洗う 片付ける  
食べる 楽しむ 寝る 愛する  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ

人々の中を歩きながら自分の心情について歌い始めるゆう。

### ゆう

生きてゆくことがいつしか  
つらくなって

心 とてもせまい小部屋に  
閉じ込められた

歩けないわ

勇気がないのよ

夜になるのがこわい

苦しんでいる

人はどれだけ

苦しむ人はどれだけ

私以外にどれだけ

うまくゆかないのは私の

せいなのかしら

笑顔 見せられない時も

分かっているわ

大人になる

これがそうなの

朝を待つのがこわい

苦しんでいる

人はどれだけ

苦しむ人はどれだけ

私以外にどれだけ

M7終了。舍利子がゆうの近くへ。

## M8 「釈迦の物語」

舍利子

苦しむ人を見て

お釈迦様は救おうと決意した

それが仏教のはじまり！

釈迦の王宮の背景となる。釈迦（ゴータマ・シッタッタ）と、赤ちやん（ラーフラ）を抱いた奥さんのヤシヨードラーと宮廷の女官たち、宮廷の子供たちが登場。2階で五蘊ダンサーたち（新体操チーム）の踊りが加わる。釈迦族の王宮の中で。ヤシヨードラーの動きはインド舞踊で表現される。

舍利子

今から二千五百年前 インド

釈迦族の王子ゴータマ・シッタッタは

何不自由のない暮らしのなかで

王宮の外に暮らす人々を見たくまりました

奥さんのヤシヨードラーは驚きます

ヤシヨードラー

外の世界はこわいと

聞かされています

どうか心配のない

お城の中で

私たちと共に

幸せな人生を

女官を呼び、外出用の目立たない上着に着替える釈迦王子。

釈迦

高い壁に囲まれた  
この城の中では  
外の世界のことは  
何も分からない  
真実が見えない  
私は知りたいのだ

間奏。不気味な月と流れ雲。釈迦王子は、門を開けて王宮の外に進み出る。【SE】大きな門が開く音。心配するヤシヨーダラー。

ヤシヨーダラー

あなた――！

音楽は暗いムードに変化。照明も暗くなる。背景は王宮の外へ。王宮の人々は退場し、薄汚い衣をまとった大勢の民衆たちが登場。生きる苦しみを歌う。おののく釈迦王子。

民衆たち

生きるのが苦しい  
毎日が戦い  
食べていくことさえも  
満足に出来ない

つらいだけの仕事  
なんのための命  
死ぬほど働いても  
明日には食えない

老人

年老いた私は  
みにくく老いぼれて  
さげすまれうとまれて  
哀れに捨てられる

釈迦

人間は誰でも  
こうなる定めか  
貴族も奴隷も  
同じではないか

病人

病気になったら  
苦しいだけじゃない  
なんの役にも立たぬ

みじめな荷物だ

釈迦

人間は誰でも  
こうなる定めか  
生きるとはすなわち  
苦しむことなのか

釈迦は死んだ人を運ぶ葬列に出会う。人々は泣きながら。

葬列の家族

愛する家族が  
この世を去った  
土に埋められて  
永遠になくなる

釈迦

人間は誰でも  
こうなる定めか  
どんなに立派な人も  
死なねばならぬのだ

民衆たち

生きるのが苦しい  
毎日が戦い  
食べていくことさえも  
満足に出来ない

(釈迦) 人間には

四つの  
苦しみが  
ある

つらいだけの仕事  
なんのための命  
死ぬほど働いても  
明日には食えない

生きること  
老いること  
病気になる  
死ぬことだ

釈迦

救う道はないのか！

(民衆たち) 救われる道はないのか！

M8終了。

## M9 「出家」

照明、暗くなる。民衆たち退場。釈迦が一人残る。背景は「釈迦の王宮」に戻るが、今回は夕暮れの絵に変化している。

釈迦

いずれこの身は

老いさらばえ  
病いに苦しんで  
その果てに死ぬのだ

どんなに努力しても  
逃れられない  
それが人生なら  
生きる意味はなんだ

豪華な王子の衣服を脱ぎ、飾りをはずし始める釈迦。

地位や財産など  
なんの役にたつ  
貧乏人も金持ちも  
死ぬ時は一人だ

私は見極めたい  
生きる意味と救われる道を  
すべてを捨て出家しよう  
悟りの道へ

粗末な衣姿となる釈迦。女官たちが介錯する。泣くヤシヨーダラー。

ヤシヨーダラー

幸せを捨て去って  
地獄のような  
苦しみの人生を  
選ぶのですか  
どんな若者よりも  
恵まれたあなたが

釈迦

こんなに多くの人の  
苦しみがあるのだ  
見捨ててはおけない  
幸せなままで  
真実が見えない  
私は知りたいのだ

舞台2階に見送りの女官の姿。

女官たち

さようなら 王子様

さようなら ア――

M9 終了。

## M10 「苦行」

音楽、アップテンポになる。両手に長い布（仕込んだLEDライトで光らせる）を持った五蘊ダンサーが登場して踊る。光の乱舞。

舍利子

誰より豊かで恵まれた  
王子の地位も捨て去って  
粗末な衣服に身を包み  
修行の道へ旅立った

間奏。荒行を表すはげしい音楽。黒子ダンサーたちが入れ替わり立ち替わり登場。水色の長い布（2本）、蜘蛛の巣、銀色のゆき、赤と緑に点滅するLEDライトのボールなど様々な小道具を使い、釈迦の苦行をダンスで表現する。

心 惑わされない苦行 (ダンサーたち) ア――  
息を止め続ける苦行 ア――  
何も飲まず食べない苦行 ア――  
苦行は6年も続いた ア――

音楽ゆっくりになる。苦行の末に倒れた釈迦。背景はスジャーターの森に変化。スジャーターが登場。

苦行の果てに倒れた  
彼に力を与えたのは  
スジャーターという名の一人の  
村の娘でした

スジャーターは、古代ハープ（琴）を持って歌う。

スジャーター

ハープの弦は 締めすぎると切れる  
ゆるすぎでは鳴らず  
ちゆうぐらいに締めると  
きれいに響く

間奏。スジャーターは倒れた釈迦に気づき、ハーブを置いて近付き、持っていた「乳がゆ」を釈迦に与える。

尊い方よ

もしよろしかったら

お受け取りください

どうぞ

釈迦は乳がゆを飲み、ゆっくりと起き上がり、歩いて舞台2階へ。  
釈迦の階段上がりきつかけで、背景は菩提樹となる。釈迦は菩提樹の下に座り、瞑想を行う。伏して釈迦を拝むスジャーター。荘厳な瞑想の女性コーラス。

女性コーラス

ア

ア

ア

瞑想する釈迦が光り輝く。コーラス終了と同時にM10終了。

## M11 「マーラ」

舍利子

悟りに向かう釈迦の前に

ゆう

マーラが次々と現れた

舍利子

マーラって何？

舍利子

悪魔のこと

恐ろしいマーラが登場。最初は巨大な怪物2体（※身長2メートルを超える。目が赤く光り、身体が不気味にライトアップされている。大きな手にそれぞれ違う武器を持つ）。

ゆう

（怪物マーラを見て、巨大さに驚く）あぁっ・・・！

巨大な怪物とゆうの大きさの比較。舍利子がゆうを守る。

怪物マーラ

ゴータマ・シツダッタ

無駄なことは

やめてしまえ

悟りの道は



ゴータマ・シッダッタ  
あきらめるのだ  
つらいだけだ  
仏の道は

釈迦

立ち去れ マーラよ！

【SE】怪物マーラの悲鳴。

怪物マーラ

私の娘たちをお前に

セクシーな女性たちのマーラが登場して、釈迦を踊りで誘惑する。  
背景は女性的な光の乱舞（女性マーラの誘惑）へ。

女性マーラ

ゴータマ・シッダッタ  
ありとあらゆる  
この世の中の  
快楽を

ゴータマ・シッダッタ  
楽しみましょう  
私たちと  
好きなように

釈迦

立ち去れ マーラよ！

【SE】女性マーラの悲鳴。

女性マーラ

これには逃げ出すだろう

女性たちのマーラ退場して、悪魔の軍隊が武器を持って襲いかかる。  
背景は男性的な光の乱舞（軍隊マーラの攻撃）へ。

軍隊マーラ

ゴータマ・シッダッタ  
修行をやめろ  
やめないのなら  
攻撃するぞ

ゴータマ・シッダッタ  
言うことを聞け  
聞かないのなら  
命はないぞ

軍隊マーラ

イヤア————ッ!!（攻撃するが跳ね返される）

軍隊マーラ  
軍隊マーラ  
軍隊マーラ

イヤア—— ツ!! (再度攻撃するが跳ね返される)  
イヤア—— ツ!! (3度攻撃するが跳ね返される)  
イヤア—— ツ!! (4度攻撃するが跳ね返される)

釈迦

立ち去れ マーラよ!

【SE】 軍隊マーラの悲鳴。

マーラたち、退散。 M11終了。

## M12 フツダの教え」

菩提樹の下で瞑想を続ける釈迦。女性コーラスが高鳴り、崇高な光が周囲に満ちて行く。舍利子とゆうは2階の釈迦の近くへ座る。

女性コーラス

ア——  
ア——  
ア——  
ア——

悟りを開いた釈迦。降りそそぐ光。各地から人々が集まり始め、釈迦の前にひれ伏して拝む。

舍利子  
男女コーラス

お釈迦さまはフツダになられた  
ア——

立ち上がり、集まって来た人々に説法を行うフツダとなった釈迦。  
背景は説法の森に変化。

釈迦

生きることは  
苦しいもの  
誰でも苦しむもの  
あなただけではないことだと  
知ることが第一

釈迦の言葉を人々が繰り返す。舍利子とゆうも歌う。

人々

生きることは  
苦しいもの  
誰でも苦しむもの  
あなただけではないことだと

知ることが第一

釈迦

生まれたものは

皆老いて

やがて病気になる

死にゆくことはさけられないと

知ることが第一

人々

生まれたものは

皆老いて

やがて病気になる

死にゆくことはさけられないと

知ることが第一

釈迦

誰もが持つ

苦しみを

すべて消すためには

あなたの心の持ち方を

変えることが大切

諸行無常

すべてはうつろい

変わらぬものは何ひとつ

ないということを知る

人々

諸行無常

すべてはうつろい

変わらぬものは何ひとつ

ないということを知る

釈迦

諸法無我

すべてのものに

自我というものはない

自分はないことを知る

人々

諸法無我

すべてのものに

自我というものはない

自分はないことを知る

釈迦

すべて変わる  
自分はない  
この二つの真理を  
あなたの心にきざみつけて  
生きることが大切

釈迦と人々

すべて変わる  
自分はない  
この二つの真理を  
あなたの心にきざみつけて  
生きることが大切  
あなたが大切  
あなたが大切  
あなたが大切

釈迦の説法は終わる。感謝する人々。M12終了。

※「諸行無常」と「諸法無我」に「涅槃寂静」を合わせて、仏教の真理を特徴づける印として「三法印（さんぼういん）」という。

※「諸法無我」「この世の一切の事物は自分のものではないと自覚して、自我の虚しい主張と縁を切った時、執著との縁も切れ、初めて苦しみのない状態を達成できると説いています。」（佐々木閑著「ブッダ真理の言葉」より）

※「ゴータマ・ブッダの説法では、色（肉体）が我であるならば、支配しコントロールできるはずだ。しかし、私たちの身体は勝手に病むし勝手に老いる。だからそれは私のものではないし、私ではないし、私の我ではない。（魚川祐司著「仏教思想のゼロポイント」）  
※諸行とは、因果によつて生まれ出るすべてのものを表します（有為）。諸法とは、有為と無為（因果を離れた不変不滅のもの＝涅槃）を合わせて呼ぶ名称で、諸行よりも一層広い概念です。」（佐々木閑著「ブッダ真理の言葉」より）

### M13 「舍利子とゆう」

釈迦と人々の照明が暗めになり、舞台2階の舍利子とゆうだけが照明に浮かぶ。

舍利子

そして80歳で  
世を去る時まで  
教えを説き続けた  
それが仏教のはじまり

釈迦と人々（弟子たち）、退場。

ゆう

人生は苦しい

舍利子

そこから生まれたのね

舍利子

そう

仏教は苦しむ人のための

薬なんだ

般若心経に戻ろう

「舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色」の文字が出る。

舍利子

舍利子（しゃーりーしー）

色不異空 空不異色（しきふーいーくーくーふーいーしき）

色即是空 空即是色（しきそくぜーくーくーそくぜーしき）

ゆう

舍利子って何？

舍利子

舍利子は私

ゆう

あなた!?

舍利子

そう 本名はシャーリープトラ

ゆう

お釈迦様の弟子さ

舍利子

あなたが登場してるのね！

ゆう

そう

舍利子

（声に出して笑う）そうなんだ！

舍利子

（楽しそうに）お釈迦様の弟子なのね へえー

ゆう

そう見えないとでも？

舍利子

私はゆう ゆうって呼んで

舍利子

ゆう よろしく

M13 終了。2階に座ったまま喋り続ける舍利子とゆう。

## M14 「色即是空」

ゆう

で あなたがどうしたの？

舍利子

観音様は私に呼びかけた

舍利子

舍利子よ

色（しき）は空（くう）に異（こと）ならず

空は色に異ならず

色は即（すなわ）ち是（こ）れ空  
空は即ち是れ色なり

ゆう

まったく分かんない

（背景に浮かんだ文字を見て）でもあの漢字

色即是空（しきそくぜくう）

聞いたことある

舍利子

色即是空

色（しき）は 言っただろう

五蘊（ごうん）の色（しき）

ああ！ 思い出した！

物質のこと

そうだった

色即是空とは

すべての物質は空ということ

すべての物質は 空！

ゆう

舍利子

舍利子

ゆう

ゆう

間奏。1階舞台上に立木や机、椅子などの「物質」が運ばれる。  
文字は消える。ゆうと舍利子は1階の舞台に降りてくる。同時に1  
階が明るくなる。

ゆう

すべての物質は 空!?

舍利子

空とは実体のない

宇宙のみなもと

実体がない？

でも・・・（舞台に運ばれた「机＝物質」をさわり）あるわ

ゆう

舍利子

（木をさし）これは？

ゆう

街路樹

なんのためにある？

町を素敵に見せるため

（机をさし）これは？

机

なんのためにある？

勉強したり書いたり

（椅子をさし）これは？

椅子

なんのためにある？

もちろん座るためよ（椅子に座って鉛筆で字を書く）

舍利子

ゆう

舍利子

ゆう

舍利子

(鉛筆をさし) これは？

ゆう

鉛筆

舍利子

なんのためにある？

ゆう

字や絵を書くため！

舍利子

それは皆

君の思い込みだ

(木をさし) これは生き物！

この生き物から見れば

(木で作られた机も椅子も鉛筆も) これもこれもこれも

自分の身体の一部！

わあ！(驚く)

ゆう

ゆうは、思わず椅子に座っているのが申し訳なくなり、立ち上がる。

舍利子

さらにこれらはすべて

原子の集まり

木はおもに

炭素と水素と酸素で出来ている

君や私と変わらない

原子レベルで見れば

すべてはひとつ！

宇宙のみなもと！

区別は出来ない！

空間を飛び回る原子の幻想的な背景になる。間奏、壮大に盛り上がる。驚き、今までとは違う思いで世界を見渡すゆう。「物質」たちは片付けられる。映像と同時に原子たちが飛び回る踊り(新体操チーム||ボールの踊り)が繰り広げられる。

かげコーラス

ア

ゆう

(つぶやく) 色即是空

すべては 空(くう)

かげコーラス

ア

空間を飛び回る原子を見つめるゆう。後奏、感動的に盛り上がって静かになり、終了。原子の踊りを踊ったダンサーたちも退場して、M14 終了。

M15 「誰でもない」

【SE】雨の音。

ゆう

あ 雨・・・

雨の都会。色とりどりの光る（LED）傘をさした現代の人々が歩く。傘をさした一人の男性が、舞台前へ来て心情を歌う。ゆうと舎利子は舞台奥の階段にすわり、大きな傘をさす。

部長代理

私の肩書きは

株式会社 部長代理

長年真面目に勤め上げて

地位を手にした

最初はずっと平社員

30代で係長

40代で課長になり

やっとう部長代理

今すべてを失った

会社を辞めた私は

もう部長代理ではない

名刺もみんなゴミ箱へ

私も捨てられた

何者なんだ 私は今

築いたすべてが消えた

居場所も役目もない

私は誰でもない

誰でもない男

間奏。男は舞台奥へ。代わって傘をさした女性が舞台前へ。

主婦

私は平凡な

普通の主婦だと

かたく信じ込んでいた



自分は幸せだと

せまいながらも家を持ち  
子供たちを育てた  
夫をばげまし主婦として  
それなりの自負もあった

今すべてがなくなった

家族をなくした私は  
もう妻でも母でもない  
暮らしはみんなアルバムへ  
明日はもう来ない

何者なの この私は

愛したすべてが消えた  
家族も家庭もない  
私は誰でもない  
誰でもない女

傘をさした人々のコーラス。舍利子とゆう、舞台前へ。

傘をさした男性

誰でもない  
名前もない

(傘をさした女性) 誰でもない

名前もない

傘をさした女性

肩書きさえも失い  
やるべきこともなければ  
待っている人もない

傘をさした男性

築いたすべてが消えた  
名前も仕事もない

(傘をさした女性) すべてが消え去り

愛も失った私は

私は誰でもない  
誰でもない男

誰でもない  
誰でもない女

※「我も空であるということ、我には固定的実体がないということ  
とです。今でいうアイデンティティーとかパーソナリティーなど、  
仏教は認めないのです。」(玄侑宗久著「現代語訳 般若心経」より)  
傘をさした人々の踊り。後奏の踊りで照明、明るくなり、M15終了。  
再び「舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色」の文字が出  
る。

M 16 「空即是色」

舍利子

(文字を指して) 色即是空の次は

空即是色

ゆう

色即是空の反対?

舍利子

そう

ゆう

空は すべて物質!

間奏。宇宙の神秘を感じるゆう。三人の人物が、机や椅子などの小道具と一緒に暗い舞台に登場。それぞれのポーズで板付き。

ゆう

空が 物になる

どういうこと?

舍利子

ここに三人の人がいる

三人の登場人物に照明。

舍利子

(下手の人物紹介) 彼は会社の社長だ

若くして会社をつくったが

今や倒産の危機

会社をすくうアイデアが必要だ

すぐに

(中央の人物紹介) 彼女は作曲家

ミュージカルを作曲中

莫大な予算がかかり

失敗は許されない

(上手の人物紹介) 彼は物理学者

難しい理論と格闘中

別な発想が生まれるのか

必死だ

三人がしていること

それは同じことさ

文字は消える。下手の社長に照明。小道具は机と椅子、ノートパソコン等の文具。

社長

だめだ！ くそ！  
なんてことだ！

このままでは倒産だ  
会社を救うためには  
今までのやり方では  
すぐに終わりだ

これまでの経験から  
分かることはなんだ  
新しい何かをしないと  
次には進めない

時間がない

(祈る) どうか私に

どこかにアイデアが  
誰も気づかない  
ヴェールにかくされた  
最高のアイデアが  
あるはず  
考えるんだ！

下手が消えて中央の作曲家に照明。小道具はピアノ、譜面、ペン。

作曲家

浮かばない！  
誰か 助けて！

今書いている曲は  
作品のテーマ曲に  
今まで誰も書いてない  
素晴らしい曲がほしい

最高の作曲家たちに  
私がかとうのかしら  
期待も予算も大きく  
助けてくれる人はない

時間がない

(祈る) どうか私に

どこかにメロディーが  
誰も気づかない  
ヴェールにかくされた  
最高のメロディーが  
あるはず  
考えるのよ！

中央が消えて、上手の物理学者に照明。小道具は黒板、チョーク。

物理学者

ちくしょう！  
どうしても行き詰まる！

この難問さえ解ければ  
物理学は進歩する  
ノーベル賞も夢ではない  
でも大きな壁がある

タテにもヨコにも行けない  
何かが違っている  
見失っているものは  
果たして見つかるのか

見つけなければ！  
(祈る) どうか私に

どこかに法則が  
誰も気づかない  
ヴェールにかくされた  
最高の法則が  
あるはず  
考えるんだ！

照明が三人を照らす。

社長

作曲家

物理学者

社長

作曲家

まてよ！  
そうだ！  
忘れていた！  
ヒントがある！  
うまくいくかも！

物理学者  
社長  
作曲家  
物理学者  
三人

これを試してない！  
よーし！  
思いついた！  
これは価値がある！  
やってみよう！

空（くう）のきらめきを表す鮮やかな光。

作曲家  
社長  
物理学者  
三人

突然降りてきた  
今まで見えなかった  
ヴェールにかくされた  
最高のひらめきが  
この手に！

社長  
作曲家  
社長  
作曲家  
物理学者

アッハツハ！  
よかった！  
神様！  
感謝します！  
神様！ 感謝します！（天に投げキッス）

舍利子  
ゆう

彼らは空（くう）を  
その手につかんだ  
何もないところから  
現実が生まれた  
空即是色！

三人

突然降りてきた  
今まで見えなかった  
ヴェールにかくされた  
最高のひらめきが  
この手に

（舍利子とゆう）この現実  
は空から生まれる  
現実  
は皆空のあらわれ

この手に！  
ア——ア——ア——

M 16 終了。

## M 17 「今悲しくても」

照明、暗くなり、三人の人物と小道具は退場。ゆうと舍利子が残る。

ゆう  
舍利子

空即是色の次は？  
こう続く

「色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是」の文字が出る。

舍利子

受想行識（じゅーそーぎょーしき）

亦復如是（やくぶーによーぜー）

受想行識とは五蘊の

色（しき）以外の四つ

心ね

ゆう  
舍利子

それもまた同じ

空なんだ

心も 空・・・

ゆう  
舍利子

変わらない心はない

すべて変わって行くとということ

過去を回想するゆう。

ゆう

空（くう）を知っていたら

寄り添いあえた心があるわ

文字は消える。舞台下手、地面にすわり、顔をかくして泣いている  
女の子が浮かぶ。ゆうは女の子に近寄り、寄り添って歌う。

ゆう

今 この瞬間

悲しくても

明日がくるわ

あなたの涙は  
すぐかわくわ  
今日だけのもの

飛んでゆくのよ  
雲の彼方に  
そして再び

生きる力が  
そそがれるわ  
あなたの中に

ゆうは、上手に、泣く女の子を発見。近寄り歌う。

今 死にたいと  
思ってるのね  
よく分かるわ

あなたの涙は  
永遠じゃない  
いい日がくるわ

飛んでゆくによ  
雲の彼方に  
そして再び

生きてみようと  
思えるから  
今をこらえて

泣いている女の子たちが舞台上に大勢浮かぶ。女の子たちを励まして歌うゆう。ゆうの歌に力をもらう女の子たち。

今 この瞬間  
悲しくても  
明日がくるわ

あなたの涙は  
すぐかわくわ  
今日だけのもの

飛んでゆくによ  
雲の彼方に  
そして再び

生きてみようと  
思えるから  
今をこらえて

明日の光、輝く。

飛んでゆくのよ  
雲の彼方に  
そして再び

生きる力が  
そそがれるわ  
あなたの中に

音楽、高鳴り、M17終了。いったん短い暗転。キャスト退場して照明がつく。客電がついて休憩アナウンス。ミュージシャン退場。

## 第一幕終了



## 第二幕

第二幕の本ベルが鳴る。

ミュージシャンが登場し、演奏開始。客電が落ちる。

### M 18 「戦場の歌」

舞台中央に少し高い台と瓦礫のパネル（カミシモ）が置かれている。  
【S E】爆音、機関銃の音、怒声など戦場の音と戦争を世界に伝える映像が出て、地球には戦争が絶えないことが表される。舞台上も戦場になる。理不尽極まりない戦争。武器を手にして戦場を這いずり回る兵士と逃げ惑う人々。スモーク。

兵士 1

いったい誰に命令されて  
ここへ来たのか  
俺に命令したそいつは  
どれだけ偉いのか

もっと偉いものが  
この世にはある  
偉いものがある

兵士 2

いつから俺の人生は  
ゲームの中に  
本当は人のためになる  
道があったのに

もっと大事なものが  
この世にはある  
大事なものがある

間奏。【S E】戦場の音。銃声。ヘリコプターの轟音。子供を撃たれて殺された戦場の母親が歌う。スモーク。

戦場の母親

どうしてあなたが私より  
上だと言えるのか  
私を支配するあなたは  
誰にこびるのか

もつと正しいものが  
この世にはある  
正しいものがある

【SE】爆音。戦場の女性が歌う。

## 戦場の女性

何度も何度も繰り返し返しても  
また同じことが  
あなたがこだわっている  
つまらないことで

もつと大きなものが  
この世にはある  
大きなものがある

【SE】戦場の女性も撃たれて倒れる。短い暗転。【SE】悲鳴や砲弾など、戦場の音がフェイドアウトして、コンサート会場における聴衆の拍手喝采の音に変わる。舞台は、戦場から一転してコンサート会場に変わる。まぶしいコンサートの照明。ギターを抱えたフォーク歌手が舞台中央の台上で歌う。台上にスタンドマイクが置かれる。コンサートの聴衆と戦場の兵士と民衆がコーラスをつける。戦場で発信された悲痛な心は、空（くう）を通じて地球の裏側にいる作詞家の心にキャッチされ、プロの歌手が歌う歌になって世界に届けられる。深いところで繋がっている一元論の例。

## フォーク歌手

いったい誰に命令されて  
ここへ来たのか  
俺に命令したそいつは  
どれだけ偉いのか

もつと偉いものが  
この世にはある  
偉いものがある

（聴衆と兵士と民衆）

ウ

偉いものがある

いつから俺の人生は  
ゲームの中に  
本当は人のためになる  
道があつたのに

もつと大事なものが  
この世にはある  
大事なものがある  
ウ――  
大事なものがある

どうしてあなたが私より  
上だと言えるのか  
私を支配するあなたは  
誰にこびるのか

もつと正しいものが  
この世にはある  
正しいものがある  
ウ――  
正しいものがある

何度も何度も繰り返し返しても  
また同じことが  
あなたがこだわっている  
つまらないことで  
ア――繰り返し返しても  
ア――同じことが  
ア――こだわっている  
ア――つまらないことで

もつと大きなものが  
この世にはある  
大きなものがある  
ア――大きなものが  
ア――この世にはある  
大きなものがある

フオーク歌手のハーモニカ演奏。

もつと大きなものが  
この世にはある  
大きなものがある  
（聴衆と兵士と民衆） 大きなものがある

【SE】聴衆の拍手喝采の音。M18終了。照明暗くなり、全員退場。  
ゆうと舍利子が登場。

## M19 「増えもせず減りもしない」

舍利子  
続いて観音様はこう言われた

「舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不増不減」の文字が投  
影される。

舍利子 是諸法空相 （しゃーりーしーぜーしょーほーくーそー）

不生不滅不垢不淨（ふーしょーふーめつふーくーふーじょー）  
不増不減（ふーぞーふーげん）

舍利子よ

この世のすべての存在は空（くう）  
だから生じたり滅したりはしない  
よごれたりきれいになつたりもしない  
増えることも減ることもない

ゆう

でも 誰かが亡くなる時は？  
この世からなくなってしまうわ

舍利子

そう 今やあの人は  
亡くなろうとしている

間奏。舞台中央に病院のストレッチャーが浮かぶ。寝かされているのは、死に行く男性。周囲を家族や知人が囲む。

医者

ご臨終です

間奏。泣く家族。亡くなった人に手を合わせる知人たち。

妻

あなた お疲れ様でした  
あなたのことは忘れません  
どうか見守ってください

長男

おやじ ゆっくり休んでください  
遺志を継いで生きてゆきます  
どうか見守ってください

長女

教えをきつと守ります  
ありがとうございます  
どうか見守ってください

知人1

あなたの事業は引き継ぎます

知人2

私たちにおまかせください

家族・知人たち

どうか見守ってください

ゆう

人は亡くなっても

家族・知人たち

亡くなっても

ゆう  
家族・知人たち  
ゆう  
家族・知人たち  
ゆう  
家族・知人たち

誰かの中に  
私の中に  
受け継がれて  
受け継がれて  
生き続けるものね  
生き続ける

ゆう  
同じ生きるなら  
よく生きたいものね  
恨まれ続けるよりも  
感謝されるように

舍利子

からだはばらばらに  
宇宙に散らばっても  
なくなることはない  
増えもせず  
減りもしない

※「あらゆる命はたえず無限の関係性のなかで変化しながらいろんな形に展開していくだけ。」(玄侑宗久著「現代語訳 般若心経」より)

M19終了。舍利子とゆう以外の人は退場。

## M20 「花は空に生きる」

一人の女性が、たくさん野の花を運んでくる。花の女性は、花にじょうろで水をやりながら歌う。花の精たちが登場して、一人ずつ花を持ち、舞台全面に置く。ひとつひとつの花たちが光(LED)に照らされ、美しい光景をつくる。見つめるゆうと舍利子。

花の女性の歌い出しと同時に、「是故空中無色 無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界乃至 無意識界」の文字が投影される。

花の女性

是故空中無色 (ぜーこーくーちゆうーむーしき)  
無受想行識 (むーじゆうーそーぎよーしき)  
無眼耳鼻舌身意 (むーげんにーびーぜっしんにー)  
無色声香味触法 (むーしきしよーこーみーそくほー)  
無眼界乃至無意識界 (むーげんかいないうーむーいーしきかい)

舍利子

だから  
空においては色はなく  
心の要素もない

目もなく 耳もなく  
鼻もなく 舌もなく  
触覚もなく心もない

いろかたちもなく 音もなく  
香りもなく 味もなく  
感触もなく意思もない

※「眼・耳・鼻・舌・身・意を六根（ろっこん）と呼ぶ。靈山を登る時や巡礼をする時、「六根清浄（ろっこんしょうじょう）」と唱えるのは、六根を清浄にし、六根にとらわれずに、空（くう）の真理を体得せよということである。」（武田鏡村著「面白いほどよくわかる般若心経」より）

花の女性は、じょうろで花に水をやりながら歌う。花の精たちの歌と踊り。文字は消え、動く花畑の背景に変化する。

花の女性

花たちは  
目もなく 耳もなく  
鼻もなく 舌もなく  
触覚もなく心もない

（花の精たち）

ア――  
無眼耳鼻  
舌身意  
ア――

いろかたちもなく 音もなく  
香りもなく 味もなく  
感触もなく意思もない  
花は空に生きる

ア――  
無色声香  
味触法  
ア――

ゆう

花たちは  
目もなく 耳もなく  
鼻もなく 舌もなく  
触覚もなく心もない

（花の女性と精たち）

ア――  
無眼耳鼻  
舌身意  
ア――

いろかたちもなく 音もなく  
香りもなく 味もなく  
感触もなく意思もない  
花は空に生きる

ア――  
無色声香  
味触法  
ア――  
花は空に生きる

花の女性

花のように生きたい  
この地上に咲きたい  
花はみんな知ってる  
すべては繋がってる

ア  
ア  
ア  
ア

花の女性とゆう

花は空に生きる  
花は空に生きる

花は空に生きる

後奏、花たちのダンス。花たちが全員退場して終わる。M20終了。  
※「ひとはなぜ苦しむのでしょうか。ほんとうは野の花のように  
わたしたちも生きられるのです。もしあなたが目も見えず、耳も聞  
こえず、味わうこともできず、触覚もなかったら、あなたは自分の  
存在を、どのように感じるでしょうか。これが「空(くう)」の感  
覚です。」(柳澤桂子著「生きて死ぬ智慧」より)

## M21 「無無無」

いったん照明、暗くなり、暗闇から巨大な仏像が浮かび上がる。観  
自在菩薩が登場。ゆっくりと中央に進み、歌い始める。「無無明  
亦無無明尽 乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得  
以無所得故」の文字が投影される。

観自在菩薩

無無明 (むーむーみよー)  
亦無無明尽 (やくむーむーみよーじん)  
乃至無老死 (ないしーむーろーしー)  
亦無老死尽 (やくむーろーしーじん)  
無苦集滅道 (むーくーしーゆーめつどー)  
無智亦無得 (むーちーやくむーとく)  
以無所得故 (いーむーしよーとつこー)

舍利子

迷いもなく  
迷いが尽きる悟りもなく  
老いて死ぬこともなく  
老いと死がなくなることもない  
苦しみも  
苦しみの原因も  
苦しみをなくす道もない  
智慧もなく

また得もない  
とらわれの心がなければ

ゆう

無 無 無  
無ばっかり

舍利子

そのとおり  
目的もゴールも  
原因も結果も  
得することもない

ゆう

何もないというの？

観自在菩薩

無無無 何もない  
無無無 とらわれない  
無無無 こだわらない  
無無無 何もない

リズム・イン。仏弟子や天女、信者たちが大勢集まって来て、観自在菩薩を中心に全員で総踊りの鮮やかなダンス・ナンバーになる。  
舍利子とゆうは座って見学。巨大な仏像と、ロックコンサートのよ  
うな光の乱舞の風景。

全員

無無無

観自在菩薩

何もない

全員

無無無

観自在菩薩

とらわれない

全員

無無無

観自在菩薩

こだわらない

全員

無無無 何もない

全員

無無無

観自在菩薩

何もない

全員

無無無

観自在菩薩

かたよらない

全員

無無無

観自在菩薩

きめつけない

全員

無無無 何もない

観自在菩薩

広く大きな心で



観自在菩薩・全員 イエーイエーイエー!

全員 無無無

観自在菩薩 何もない

全員 無無無

観自在菩薩 とらわれない

全員 無無無

観自在菩薩 こだわらない

全員 無無無 何もない

全員 無無無

観自在菩薩 何もない

全員 無無無

観自在菩薩 かたよらない

全員 無無無

観自在菩薩 きめつけない

全員 無無無 何もない

観自在菩薩 もっと大きな心で

観自在菩薩 イエーイエーイエー!

観自在菩薩 一度すべてをなくして

ないものと思おう

あなたの周りの壁を

とつばらってみれば

果てしない空(そら)が見える

イエーイエーイエー!

(全員) ア――

ないものと思おう

オ――

イエーイエー

イエー見える

間奏。ダンス。

女性たち 無無無

男性たち 何もない

女性たち 無無無

男性たち とらわれない

女性たち 無無無

男性たち こだわらない

女性たち 無無無

全員 何もない

女性たち 無無無

(男性たち) 無無無

何もない  
無無無  
かたよらない  
無無無  
きめつけない  
無無無 何もない  
何もない  
無無無  
かたよらない  
無無無  
きめつけない  
何もない

観自在菩薩  
観自在菩薩・全員  
もつと大きな心で  
イエーイエーイエー！

ゆうと舍利子も踊りに巻き込まれ、一緒に踊る。

観自在菩薩  
何もない (全員) 無無無 無無無 何もない 何もない  
とらわれない 無無無 無無無 何もない 何もない  
こたわらない 無無無 無無無 何もない 何もない  
無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
女性たち 何もない (全員) 無無無 無無無 何もない 何もない  
女性と男性 無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
観自在菩薩 無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
かたよらない 無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
きめつけない 無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
無無無 無無無 無無無 無無無 無無無 無無無 何もない 何もない  
女性たち 何もない  
女性と男性 何もない  
観自在菩薩 何もない  
もつと大きな心で (全員) イエー！

M 21、華やかに終了。強大な仏像の背景は残る。

## M 22 「菩薩の心」

全員、静かに整列して読誦。同時に「菩提薩埵 依般若波羅蜜多故  
心無罣礙 無罣礙故 無有恐怖 遠離一切 顛倒夢想 究竟涅槃」  
の文字が出る。

全員  
菩提薩埵(ぼーだいさつたー)  
依般若波羅蜜多故(えーはんにはんにゃーはーらーみーたーこー)  
心無罣礙無罣礙故(しんむーけいげーむーけいげーこー)  
無有恐怖(むーうーくーふー)  
遠離一切顛倒夢想(おんりーいっさいてんどーむーそー)  
究竟涅槃(くーぎようねーはん)

舍利子

菩薩は  
この智慧を体得することで  
心にさまたげがなくなり  
心にさまたげがないゆえに  
恐れるものもなくなった  
いつさいの間違った考えから遠ざかり  
永遠なる心の平和を得た

文字は消え、巨大な仏像の背景になる。

全員

般若波羅蜜多是  
最高の智慧  
般若波羅蜜多

ア

舍利子  
ゆう

菩薩は人を救う存在なのです  
人を救う存在・・・  
私 ある人を思い出すわ

全員静かに退場。同時にゆうの前に一人の女性が登場する。

みすず  
ゆう

ゆう  
みすず！

みすずの登場に驚くゆう。舞台はみすずとゆうだけになる。

みすず  
ゆう

しばらく  
会いたかった  
いつも心で感謝しているの  
あの時あなたがいてくれなかったら  
私を助けてくれなかったら  
私生きていない  
きつと死んでたから

みすず

ありがとう  
あなたがそう思ってくれるだけで  
この世に生きた甲斐があった

二人は抱き合う。泣くゆう。

ゆう

あなたは菩薩だったの？  
あの時私を救って  
そしていなくなつた  
あなたは人だったの？

みすず

ええ 人よ  
誰でも人は  
菩薩の心を持つている  
自分のためじゃなく  
人のために生きた時  
その人は菩薩になる

### M23 「誰かのために」

みすず

人は  
自分じゃなく  
誰かのため  
生きたいと  
願う  
時に力が  
生まれる  
生きる力が

自分

なんてどうなつても  
いいのだと  
思えた時  
そこに  
生きる道が  
開かれる  
あなたの前に

信じられない  
大きな力  
あなたの心にもある

ほんの少し  
見方を変えて  
誰かのために生きて

愛する人のために

ゆう

人は

自分じゃなく

誰かのため

生きたいと

願う

二人  
ゆう

時に力が

生まれる

二人

生きる力が

ゆう

自分

なんてどうなっても

いいのだと

思えた時

二人

そこに

生きる道が

開かれる

みすず  
ゆう

あなたの前に

ゆう

私の前に

二人

信じられない

大きな力

私の心にもある

ほんの少し

見方を変えて

誰かのために生きよう

愛する人のために

M 23 終了。みすずは姿を消す。

## M 24 「ナイトスタンド・ブディスト」

急に世界が変わり、都会の夜景とパーティーになる。お洒落に着飾った男女がグラスを手に集まってくる。都会のパーティー会場にまぎれこんだゆう。ウエイトレスからグラスをもらう。舍利子は、お洒落な現代の服に早替わり、パーティーの幹事として登場する。

舍利子（幹事）

皆さん ようこそ  
ナイトスタンド・ブディストの  
パーティへ  
私たちは皆  
自分で仏教を選んだ人間です  
昼間は働き  
夜は部屋のあかりを消し  
ナイトスタンドだけにして  
瞑想を行う  
ナイトスタンド・ブディストです  
きょうは皆さんと出会えて  
幸せです  
どうぞ皆さんのお話を

ブディスト1

私は  
この絶望の世の中で  
よりよく  
正しく生きるため  
教えをさがしました

世界を  
旅して回るうちに  
仏教の  
釈迦の教えが  
自分に合っていると

ブディスト2

釈迦の  
教えのなかには  
神も救世主もない  
みずから歩くのです  
正しい  
八つの道とは  
自我をなくして行く道  
信じて歩んでいます

ブディスト3

私たちはみんな  
特定の組織に  
所属はしていません  
個人個人の思いなのです

ブデイスト4

この世の  
争いや悲劇は  
みんな執着のせいです  
自我が強すぎるのです

ブデイスト5

執着は  
苦しみの原因です  
自我は大きくなるほど  
必ず衝突します

ブデイスト6

私と他人という  
二元論では  
争いは絶えません  
一元論に帰るべきです

舍利子（幹事）

ゆう

一元論  
すべては一つ

M24終了。

## M25 「東洋の智慧」

パーティーは続きます。

ブデイスト7

（ゆうを見て） こんにちは 新しい人ね

舍利子（幹事）

ゆうさんだ

ゆう

はじめまして

ブデイスト7

仏教に興味を？

ゆう

般若心経を読んでいます

ブデイスト7

ハートストラ！

リズム・イン。

ブデイスト7

大乘仏教のお経ね

ブデイスト8

空（くう）と無のオンパレードね

ブデイスト9

ジョン・レノンの「イマジン」ね

ブデイスト10

ノーのオンパレード

ブティスト11

ブティスト12

ブティストたち

ボブ・ディランの名曲  
「風に吹かれて」も私は  
空の思想を感じる  
色即是空よ

東洋の智慧（ちえ）を  
学んでみよう  
新たな宇宙が  
開けるはず

東洋の智慧を  
話し合おう  
古くて新しい  
真理がある

（オブリガート）ア

真理がある

ブティスト13

ブティストたち

二千年前の教えが  
最新の科学理論と  
同じことを言ってる  
それが驚き

ブティスト14  
ブティスト15  
ブティスト16  
ブティスト7

スティーブ・ジョブズも  
有名な心理学者も  
宇宙物理学者も  
認めている

東洋の智慧を  
学んでみよう  
新たな宇宙が  
開けるはず

東洋の智慧を  
話し合おう  
古くて新しい  
真理がある

（オブリガート）ア

真理がある

ブティストたち

東洋の智慧を  
学んでみよう  
新たな宇宙が  
開けるはず

（オブリガート）

ラーララーララーラ  
ラーララーララーラ  
ラーララーララーラ  
ラーララーララーラ



東洋の智慧を  
話し合おう  
古くて新しい  
真理がある  
イエー！

ラーララーララーラ  
ラーララーララーラ  
ア――

M 25 終了。ブディストたち、笑い声。

## M 26 「苦しいなかでどれだけ」

なごやかなブディストたち。女性のブディストが、ゆうに聞く。

ブディスト7

(ゆうに) なぜ般若心経を？

ブディストたち、ゆうに注目する。

ゆう

父が読んでいたことを  
思い出して

癌で亡くなる前まで  
ずっとベッドで

最期の日々  
何を求めて  
読んでいたのか  
知りたくて

苦しいのに  
とてもつらいのに  
家族のことだけ気にして  
やすらかに亡くなった

父の気持ちを知りたいと  
読んでみたの

心配ばかりかけていた  
娘だった

父の声を

聞いてみたかった  
ただ助けてほしかった

どんな気持ちで  
父は逝ったの  
苦しいなかでどれだけ  
幸せだったのか

M 26 終了。

## M 27 「幸せの花」

ブディスト7

苦しくても  
最期まで  
家族のことを  
思っていた  
お父さんは幸せだったはず

生きるとは苦しいもの  
誰でも苦しむもの  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせること

蓮（はす）の花は泥のなか  
花を咲かせる  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせる

ブディストたち

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊いあなただけの花を

ブディスト7

過去を受け止め  
今を受け止め  
未来を受け止め  
今日という日を生きる

ゆう

生きるとは苦しいもの

(コーラス) ア

誰でも苦しむもの  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせること

ア  
ア  
ア

蓮の花は泥のなか  
花を咲かせる  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせる

ア  
ア  
ア  
花を咲かせる

全員

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊いあなただけの花を

ゆう

過去を受け止め  
今を受け止め  
未来を受け止め  
今日という日を生きる

ア  
ア  
ア  
ア

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊いあなただけの花を  
幸せの花を

幸せの  
花を咲かせよう  
美しい  
あなただけの花を  
幸せの花を

※「蓮を観じて自らの清きことを知る（空海）」蓮の花は、つぼみのうちからすでに種を持っているように、私たちは迷いの凡夫でありながら、その心には仏になれる「仏性」が備わっている。」（武田鏡村著「面白いほどよくわかる般若心経」より）  
M 27 終了。

## M 28 「三世諸仏」

舞台暗くなつて、ブディストたちは退場。ブラックライトのショーとなる。ブラックライトに反応する三人の白い衣裳の仏様「三世諸仏（過去仏・現在仏・未来仏）」が登場。マジカルに歌い踊る。歌と同時に「三世諸仏 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提」の文字が出る。

三世諸仏

三世諸仏（さんぜーしょぶつ）  
依般若波羅蜜多故（えーはんにはんにゃーはーらーみーたーこー）  
得阿耨多羅三藐三菩提（とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい）

もとの衣裳に着替えた舍利子が登場して歌う。

舍利子

過去 現在 未来の  
すべてのほとけは  
この真実の智慧により  
この上なく正しい悟りを得た

最初は「千手観音」的な白い多数の手が舞い踊り、蓮の花びらが分かれて飛んで来て空中でひとつの花になったり、三世諸仏が蓮の花の上に乗って空中に浮かび上がったり、流れる雲の上を飛んだりするブラックライトを使ったダンス・ショー。

コーラス

三世諸仏  
依般若波羅蜜多故  
得阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提  
阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅 阿耨多羅  
阿耨多羅 阿耨多羅  
阿耨多羅 阿耨多羅  
阿耨多羅 阿耨多羅

三藐三菩提 三藐三菩提  
三藐三菩提 三藐三菩提  
三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提  
阿耨多羅三藐三菩提

三世諸仏  
依般若波羅蜜多故  
得阿耨多羅三藐三菩提

舍利子

宇宙のすべての方角に

ほとけさまはおられる  
私たちのいるところに  
必ずおられる

間奏。五蘊ダンサーが蛍光のフープ（輪）を持って踊る。ほとけさまの光輪を表す。さらに、小さなほとけたち（小道具）も空中を浮遊する。にぎやかなほとけの世界をダンスと小道具で表現。

舍利子とコーラス

三世諸仏

依般若波羅蜜多故

得阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

（掛け合い） 阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

阿耨多羅 阿耨多羅

三藐三菩提 三藐三菩提

三藐三菩提 三藐三菩提

三藐三菩提

（掛け合い） 三藐三菩提 三藐三菩提

三藐三菩提 三藐三菩提

三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提

三世諸仏

依般若波羅蜜多故

得阿耨多羅三藐三菩提

舍利子

ほとけさまは私たちを  
見守っておられる

阿耨多羅三藐三菩提！

（コーラス） 阿耨多羅三藐三菩提！

M 28 終了。舞台に舍利子とゆうが残る

M 29 「耳なし芳一」

舍利子

般若心経は  
魔除け（まよけ）の呪文  
苦しみが取り除かれる  
神秘の力がある  
その力を示した  
ひとつのお話をお聞かせしよう  
耳なし芳一の物語

琵琶を抱えた芳一登場。阿弥陀寺の背景。

舍利子

昔 長門（ながと）の国（※長門の国⇨今の山口県下関市）の  
阿弥陀寺（あみだでら）に芳一（ほういち）という  
盲目の琵琶法師がおりました

芳一、舞台中央に座り、平家琵琶を弾き語る。

芳一

祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）の鐘の声  
諸行無常の響きあり  
沙羅双樹（しゃらそうじゆ）の花の色  
盛者必衰（じょうしゃひつすい）の理（ことわり）をあらわす  
おごれる物 久しからず  
ただ春の夜（よ）の夢のごとし

舍利子

芳一は平家物語が得意でした  
ある晩のこと  
芳一のもとに一人の侍（さむらい）が訪ねてきます

全身黒ずくめの甲冑の侍（亡霊・平安時代・12世紀）が登場。

侍

芳一 自分はさる高貴な方の使い  
わけあつて主人の一行が  
近くに来ているので 宿に来て  
お前の得意な曲を聴かせてくれ  
分かりました

芳一

芳一は立って紗幕前へ。背後に紗幕ダウン。

舍利子

芳一は侍についていき  
琵琶の弾き語りを聴かせました

芳一、平家琵琶を弾き語る。

芳一

さるほどに

源氏の兵（つわもの）ども

平家の船に乗り移りければ

あるいは射殺（いきころ）され

あるいは斬り殺（きりころ）されて

船底（ふなぞこ）に皆 倒れ伏しにけり

紗奥に暗い照明。黒い着物を着てすすり泣く大勢の人々が浮かぶ。  
不気味な死者の光。

舍利子

クライマックスになると

大勢のすすり泣きの声が

そんなにたくさんいたのかと驚くほど

あつちからも こつちからも

すすり泣く人の声！

紗奥の照明、消える。

琵琶の腕を褒められた芳一は

これから毎晩来て

琵琶を弾くように命じられます

侍

しかし芳一

ここへ来ていることは

誰にも言っではいけない

侍はいったん退場し、和尚登場。

舍利子

毎晩のように寺を抜けだし

どこかへ行く芳一を

寺の和尚（おしょう）は不審に思います

わけを聞いても芳一は答えません

そこで和尚は芳一のあとを

つけることにしました

平家の墓の背景。

すると驚いたことに

芳一が行っていたのは  
平家の墓だったのです！

【SE】「ゴーン」と鐘の音。紗奥に浮遊する赤いひとだま。

ひとだま

ア  
ア

舍利子

琵琶を弾く芳一のまわりには  
無数のひとだまが！

(ひとだま) ア

ひとだま

ア  
ア

紗奥のひとだまは消える（飛び去る）。背景は阿弥陀寺に戻る。

舍利子

和尚は芳一に言い聞かせます

和尚

芳一 お前が琵琶を聞かせていたのは

平家の亡霊たちだ（驚く芳一）  
二度と行ってはいけない

舍利子

和尚は芳一の着物を脱がせ

体中に墨で般若心経を書きました

間奏。和尚と弟子（筆二本と硯を持ってくる）が芳一の身体に般若心経を書く。

和尚

よいか 今夜迎えが来ても  
決して返事をしてはならぬ  
だまって座っておれ  
でないと亡霊に殺されてしまうぞ

舍利子

深夜になると使いの侍がやってきました

再び、紗奥に赤いひとだまが浮遊する。不気味な死者の光。

ひとだま

ア  
ア

侍

芳一・・・芳一・・・芳一・・・！

芳一を探し回る侍（亡霊）。紗奥に平家の亡霊も浮かぶ。



舍利子 芳一の姿は亡霊には見えません (ひとだま) ア  
般若心経の神秘の力が ア  
芳一を守っていたのです ア

―― 紗幕アップ。侍は舞台奥へ。芳一を探し回る。

舍利子 しかし 亡霊は芳一の耳だけが  
宙に浮いているのを見つけてました

侍は、浮かんでいる耳に気づき、芳一に近づく。

舍利子 あろうことか和尚は  
「芳一の耳に般若心経を書くのを  
忘れていたのです

侍 芳一!! (芳一の耳をつかんで引きちぎる。【SE】耳を引きちぎる音)

◆耳を引きちぎる【SE】。飛び散る血しぶき。

芳一 ギャ―― ツ!!

舍利子 亡霊は 芳一の耳を引きちぎり  
去って行ったのです

和尚 (芳一に駆け寄る) 芳一!

舍利子 芳一は耳を失いました  
しかし命は取られずにすんだと  
和尚と抱き合い喜んだのです

M 29 終了。照明暗くなり、芳一と和尚退場。琵琶も片付けられる。

### M 30 「真実の呪文」

舍利子 そしてもう一人  
般若心経の呪文に助けられたこの人!  
三蔵法師と呼ばれる  
玄奘三蔵! (照明、明るくなる)

中国、蜀の国（7世紀）の背景。三蔵法師（玄奘三蔵）が弟子を引き連れて登場。道に倒れた病人を発見する。

舍利子

玄奘三蔵は中国を離れる前

蜀（しよく）の国で一人の病人に出会います

病人を助けて衣服や食べ物を与えた玄奘に

病人は呪文をさずけます

病人

この呪文は

あなたを守ってくれるでしょう

どうぞ覚えて唱（とな）えてください

「羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶」の文字が出る。

病人

羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）

波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）

舍利子

玄奘はこれのお経を覚えて旅に出ます

砂漠の背景が変わる。

舍利子

砂漠を越えてインドへ向かう

きびしい旅でした

玄奘三蔵

どんなにきびしい旅でも

前に進むのだ

ほとけの力が私を

守ってくれている

羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）

波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）

舍利子

インドに向かう玄奘の前に

マーラが次々と現れた

恐ろしいマーラ（最初は巨大な怪物2体）が登場。

怪物マーラ

三蔵法師

無駄な旅は

やめてしまえ

家に帰れ

三蔵法師  
考え直せ  
つらいだけだ  
仏の道は

玄奘三蔵

〔羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）  
波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）

怪物マーラ

〔SE〕怪物マーラの悲鳴）私の娘たちをお前に

セクシーな女性たちのマーラが登場して、玄奘を踊りで誘惑する。  
背景は女性的な光の乱舞（女性マーラの誘惑）へ。

女性マーラ

三蔵法師  
休みなさい  
頑張るのは  
もうやめて

三蔵法師

目的地には  
何もないわ  
あきらめなさい

玄奘三蔵

〔羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）  
波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）

女性マーラ

〔SE〕女性マーラの悲鳴）これには逃げ出すだろう

女性たちのマーラ退場して、悪魔の軍隊が武器を持って襲いかかる。  
背景は男性的な光の乱舞（軍隊マーラの攻撃）へ。

軍隊マーラ

三蔵法師  
行くのをやめろ  
やめないのなら  
攻撃するぞ

三蔵法師

言うことを聞け  
聞かないのなら

命はないぞ

玄奘三蔵

羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）  
波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）

軍隊マーラ

【SE】マーラの悲鳴

軍隊マーラ退場して、砂漠の背景。

玄奘三蔵

これは大いなる呪文であり  
光り輝く呪文であり  
この上なき呪文であり  
並ぶもののない呪文である！  
苦しみをいっさい取り除ける  
真実の呪文とは！

「羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶 般若心経」の文字が投影される。

羯諦羯諦波羅羯諦（ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー）  
波羅僧羯諦菩提薩婆訶（はらそうぎゃーてーぼーじーそわかー）  
般若心経（はんにゃーしーんぎょー）

※「皆さんの中に生命がありますね。この命は宇宙の生命からもらっているんです。羯諦羯諦・・・この呪は、宇宙の生命に呼びかける宇宙語としてみてください。」（瀬戸内寂聴著「寂聴 般若心経」）  
※玄奘三蔵のインドへの旅を題材につくられた伝奇物語が「西遊記」である。その主人公である「悟空（空を悟る）」という名は、「般若心経の趣旨そのものといえる。悟空は「般若心経」の化身なのかもしれない。」（渋谷申博著「あなたの知らない般若心経」より）  
玄奘三蔵は退場。後奏で現代社会の人々が舞台に登場して位置につき、M30終了。都会の風景（M2と同じ）に変化。

## M31「幸せの花（ファイナーレ）」

現代社会の人々、生活の動き。

現代社会の人々

生きる 働く しゃべる 笑う  
思う 聞く 洗う 片付ける

生きる 働く しゃべる 笑う  
食べる 楽しむ 寝る 愛する  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ

ゆうと舍利子が舞台中央に進む。

舍利子

これで私の話は終わりです  
仏教は苦しむ人のもの  
またいつか あなたが  
触れたいと思った時に  
ページを開いてください

舍利子は、ゆうに「般若心経」の本を返す。

ゆう

優しいのね 舍利子さん

あなたはどういう人なの？

舍利子

智慧第一と呼ばれた

お釈迦様の一番弟子です

本当はお釈迦様より年上でした

ゆう

そうなのね

亡くなった父をイメージして読んでいたわ

ありがとう

舍利子は、微笑んで退場。生きる世界を見渡すゆう。春。桜の花が  
咲き、花びらが散る。都会の桜並木の背景。

現代社会の人々

生きる 働く しゃべる 笑う  
思う 聞く 洗う 片付ける

生きる 働く しゃべる 笑う  
思う 聞く 洗う 片付ける  
食べる 楽しむ 寝る 愛する  
働く 仕事する 頑張る 急ぐ

桜の花が舞い散る中で、ぴたりと音楽が止む。今日からの人生を生  
きて行こうと決意を新たにしているゆう。アカペラで歌い出す。

ゆう

生きることは苦しいもの

誰でも苦しむもの  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせること

ここから音楽、伴奏がスタート。

蓮の花は泥のなか  
花を咲かせる  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせる

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊い私だけの花を

過去を受け止め  
今を受け止め  
未来を受け止め  
今日という日を生きる

都会の桜並木と桜吹雪。

生きることは苦しいもの  
誰でも苦しむもの  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせること

(コーラス)

蓮の花は泥のなか  
花を咲かせる  
苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせる

ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
花を咲かせる

全員

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊い私だけの花を

ゆう

過去を受け止め  
今を受け止め

ア——過去を受け止め  
今を受け止め

未来を受け止め  
今日という日を生きる

未来を受け止め  
生きる ア

全員

苦しみのなかで幸せの  
花を咲かせよう  
苦しんだだけ美しい  
尊い私だけの花を  
幸せの花を

幸せの  
花を咲かせよう  
美しい  
私だけの花を  
幸せの花を

ア  
ア

ア  
ア

歌尻で照明カットアウト。M31終了。  
暗転中でゆうを残し、全員、退場。

終

## M32 「カーテンコール」

無音で照明がつく。舞台中央にゆう一人。無音、拍手の中でお辞儀。  
音楽スタート。ゆうはいったん退場し、キャスト全員挨拶。最後に  
舍利子、ゆう。キャスト全員整列。手を繋ぎ、全員でお辞儀して歌  
へ。

※M25リプライズ

全員

ハートストラ!  
東洋の智慧を  
学んでみよう  
新たな宇宙が  
開けるはず

東洋の智慧を  
話し合おう  
古くて新しい  
真理がある

(オブリガート) ア———ア—ア—

バンド紹介。ソロ演奏あり。

※M23リプライズ

ゆう

人は  
自分じゃなく  
誰かのため  
生きたいと  
願う時に力が  
生まれる  
生きる力が

女性

信じられない  
大きな力  
私の心にもある

(男性)

ウ  
ウ  
ウ——心にもある

ほんの少し  
見方を変えて  
誰かのために生きて  
愛する人のために

ウ  
ウ  
ウ——  
誰かのために生きて  
愛する人のために

※M6リプライズ。

すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている

すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている  
すべては空に繋がっている

ア  
ア

ア  
ア

曲終了で照明、カットアウト。短い暗転後、照明がつく。  
全員手を繋いでお辞儀。観客に手を振りながら退場（退場音楽）。  
ミュージシャンの演奏が終わり、立って観客に挨拶。退場。  
客電がつき、場内アナウンス。

# ミュージカル「ハートストラ」 終